

神奈川／関東大会レポート一覧

分科会名	レポート名	副題
地域の掘りおこし	日露戦争と東葛の人びと	
	楚人冠と「大逆事件」研究その後	「事件」犠牲者・菅野須賀子の京都時代、その足跡を追う
	手紙から見える90年前の人の交流	ネブラスカに残る200通の手紙から
	満州事変の『陣中日誌』について	野砲兵第2連隊第1大隊本部『陣中日誌』の解説作業
	鎌倉にあるアジア太平洋戦争の痕跡	戦争遺跡の実践とフィールドワークで訪ねる
	八丈島の戦争体験の聞き取りを行う	
	地域の掘りおこしをどう継承するか	国民学校から本土決戦を考える
	横浜の英連邦戦死者墓地から見えてくるもの	なぜ英連邦兵士や米・蘭兵士の墓が横浜に？
	木更津基地と地域住民の闘い	海軍航空隊からオスプレイまで
	「高橋吉三郎メモ」に見る片柳事件とその後	
日本前近代	千葉県歴史協歴史見学会活動の取り組み	見えてきた歴史見学の課題
	地域の掘りおこしから自治体の平和事業へ	武蔵野の空襲の掘りおこしの20年間の取り組みから考える
	明の海禁政策と琉球王国の繁栄	明は琉球に何を求めたのか？
	高校生の歴史（日本史）観とこれからの授業	授業案「鎌倉幕府の成立は西暦なん年と質問されたらあなたはどうか答えますか」
	あなたは会津へ行くか越後に残るか？	上杉氏の会津転封を中学生が考える
	江戸時代の宴会メニュー	地方都市の町人は何を食べていた？
	近世「大和川のつけかえ」前史	授業実践をもとに地域の歴史を深める
	学校設定科目「地域と防災」で取り組んだこと	『三重県歴史史実年表編』の作成
	歴史読本「守山から日本の歴史を見る」の刊行・普及・活用	守山歴史教材研究会のこれまでとこれから
	日本近現代	自由民権運動と教育
蕪島と蕪島神社		廃仏毀釈から国家神道へ
昭和恐慌下・学校給食のはじまり		和歌山県の山村の場合
木更津高女生が描いた昭和20年		
日本軍政下「3年8か月」の記録と継承		シンガポールと日本の教科書を比較する
巧妙な「戦争正当化論」と向き合い主体的に考える歴史の授業		『バルハーバーの授業』『永遠のゼロ』を乗り越える中学生たち
日本人にとって「真珠湾攻撃」とは		取材申し込みを受け考えたこと
北海道女性の戦後70年		戦後70年目に届いた亡き父の軍歴証明書
近代史と現代の社会問題をつなぐ		伝記形式の定期考査を通じて
日米安保を問う沖縄米軍基地授業実践		
世界	日中韓の共同における台湾参加問題	東アジア青少年キャンプにおける台湾初参加の経験から
	東アジア3国の開港	
	唐代のシルクロードを往来した人と物	中国の高校生への授業実践
	「史資料」からつくる世界史の授業	『世界史史料』を活用した授業実践
	風刺画にみるオスマン帝国の衰退	
	ヴェールをまとったムスリマの挑戦	現代のイスラームを考える
	高麗大生と学ぶ市川房枝の思想と行動	
	再び、高校新科目「歴史総合」を批判する	世界史教育を継承・発展させるために
	「移民史を取り入れた試み」	移民を通して、地域・世界を考える・日本史Aでの実践
	ユダヤ人迫害と救済人たち	杉原千太郎、JTB職員、救済市民の判断から見えてくるもの
憲法と現代の社会	第2次世界大戦中の日系人強制収容	収容所の中での日系人の戦い
	憲法を学ぶことはいまを知ることにつながる	小学校6年生の憲法学習
	現代社会を読み解く力を育むために	多文化共生・人権学習から学んだこと
	「立憲主義」を考える授業	日本国憲法を学ぶ（入門）入口として
	憲法70周年の立命館宇治の取り組み	憲法の価値を生徒と考えるために
	授業「長崎市長への7300通の手紙」	楽しく学ぶ憲法学習part2
	ヘイトスピーチ問題から考えること	在日コリアンの歴史と現在を学ぶ
	日本の財政政策どうする その3	
	そら君への手紙	一人でデモをするビデオの少年に
	「新憲法」は秋田ではどのように普及したか	能代二中「新憲法いろは歌留多」から見えてきたこと
思想・文化・文化活動	戦後、中国の学校で学んだ日本人の私	“他国から見た日本”に目を向けた歴史学習
	高校生と学ぶ地域の戦争	戦没者数や戦争遺跡の見学から
	「草の根のファシズム」を演じる	法政二高「世界史劇」の取り組みから
	南京大虐殺事件と紫金草	歴史を忘れず、未来に向けて
	社会運動としてのうたごえ	「どらごえサークル」の歩みを通して
	感性を豊かにするブックトーク	
	100年前、植民地朝鮮での「虎狩り」の顛末	山本惟三郎と『征虎記』の世界
	震災から6年、岩手県沿岸被災地の今	
	原発事故から6年の「フクシマ」	
	和枝さんはなぜ死んだ？（米軍機墜落事件）	墜落事件から40年、謎を追い続けて
現代の課題と教育	投書で訴える平和をつくる活動	2011～2017年の信濃毎日新聞「建設欄」
	教育系大学生と道徳教育を考える	「教育動議」も正面に、大学実践現進行形
	担任2年目！生徒と共に成長したクラス指導。	生徒が主体のクラスづくり
	自己形成史を綴る授業	自己一身上の悩みを社会的にとらえ直す
	僕らの沖縄見学旅行	事前学習から事後学習で何を学んだのか
	中国人強制連行と和解について考える	「りゅうりえんれんの物語」を切り口として
	君は満州へ行くか③	地域の課題に目を向けた総合学習における平和学習
	従軍慰安婦日韓合意は誰のためか	実態解明抜きの政治取引のねらい
	空襲体験の次世代継承を考える	東京大空襲被災資料センター夏休み特別企画から
	三重県にもあった「逃げるな、火を消せ！」	
平和教育	歴史の継承 被害者の証言を聞き続けて	アジア・フォーラム横浜証言集を23年間続けて見えてきたこと
	「平和の港」100周年にあたって	
	若者の戦争認識形成の今日的課題	歴史体験キャンプの取り組みから
	18歳選挙権の担い手を育てる	平和ゼミナールの最近2年間の活動
	特別の教科 道徳	新学習指導要領がめざすのは森友学園の教育
	つくって 育てて 食べて	体験は子どもにとって何より宝
	絵本で学ぶ「となりの国」	朝鮮学校での授業から考えたこと
	アイヌってなあに	朝鮮学校低学年の実践
	わたで遊ぶ	収穫の喜びから始まる生活科の活動
	実技講座「アイヌ文化アドバイザー弓野さんと一緒にアイヌ文化を学ぼう」	小学校から大学まで授業でアイヌ文化をどのように学ぶことができるのか
小学校中学年	入門講座 小学校中学年の社会科学学習	社会科好きの子どもたちを育てるための地域学習の作り方
	地域調べと評価	
	西戸崎のうつりかわりと人々のくらし	私たちの校区に炭坑と米軍基地があった
	岡垣町の歴史調べから岡垣町歴史発表会へ	自分たちの町の歴史を調べ、壁新聞やカルタにまとめ、学び合う子どもたち
	学校に於ける郷土資料室の資料の保存と活用	郷土資料室での10年間のボランティア活動から
	私たちの県 伝統文化を生かす町佐原	
	地域と戦争の関係を追究した平和学習	なぜ、長野県の人がつくば市まで来て芝畑をつくったのか？
	あらためて低い土地のくらしの授業づくり	
	わたしたちと情報	医療情報ネットワークと情報モラル
	小学校5年	これからの食料生産と私たち
札幌で小学校5年のお米の授業をする		
戦争と公害はツナガル！		海軍燃料廠・パンキン・コンビナート
アイヌ文化と風で学ぶ子どもたち		

小学校 6年	「飛び込み授業」付き研修会で学ぶ楽しく分かる社会科指導法	6年生（高学年）を一気に引き込む平和・世界学習の教材と実践報告
	雪村インワンダーランド	西の雪舟、東の雪村と呼ばれる雪村を調べて
	長く続いた戦争	
	長く続いた戦争と人々のくらし	調べて発表・大学生との交流授業・そして憲法学習へ
	自分たちと戦争とのつながりを考える授業	相模ダムを教材として
	事実のなかの真実をみつめて	関東大震災朝鮮人虐殺についての学習
地域の中の子どもたち	江戸時代における海外とのつながり	朝鮮通信使を通して
	被災地は今（6）	震災後6年を経た気仙沼・陸前高田の現状と課題
	1年間の授業の記録から考える年間計画の構想	小6の社会科を例に
	「子どもの未来をひらく川崎集会」の取り組み	28年目の、市民がつくる子育てのつどい
	全校地域調べを活かし、地域認識を育てる	過疎地域で学校は地域に何ができるか
	アフリカ州の授業実践	
中学校 地理	安い労働力	
	日本地理のプレゼン授業	
	次期指導要領で日本地理をどう教えるか？	子どもの目から考える日本地理授業
	地理から公民へどうつなぐか	
	戦争体験の継承にチャレンジ	広島から平和アピールまで
	在日朝鮮人について	
中学校 歴史	歴史教科書のつくりかた・試論	問いを生み出す歴史教科書へ
	邪な馬が天子になった！？	今度こそ学び舎教科書を使ってみました！
	知識の共有と「アクティブ・ラーニング」	育て合える歴史学習を
	日本はなぜもっと早く降伏しなかったのだろう	日本の敗戦をどう教えるか
	『戦没船の記録』からみる日本の戦争	
	パールハーバーとヒロシマ	
中学校 公民	再考・江戸時代学習	
	政治的中立性をどう考えるか	
	日本国憲法をどう教えるか	もし、育鵬社の教科書を使うことになったとしても
	模擬選挙から広がった公民の授業	「未来の有権者」から「現在の主権者」へ
	消費税は公平な税？・君も借金830万円！	「納税の義務」から「納税への権利」へ
	電通・過労自殺を考えた	高橋さんは甘えている？
高校	18歳選挙権を見すえた主権者教育の試み	卒業直前に「日本の国際貢献」を問う
	曾祖父の戦争体験を想像し未来を創造する知性に	わが家の20世紀年表と近現代史学習から
	近代日本移民の歴史をどう教えるか？	野球「朝日」チーム（バンクーバー）の来日から考える
	トランプ政権の移民規制から難民問題を考える	
	「対話」を通して学ぶ授業	「学びの共同体」に学んで
	地形図に親しもう！学校生活を地形図で見る	
大学	調べ学習で主権者教育	
	地域の在日朝鮮人のライフストーリーに学ぶ歴史学習	
	地域と世界をつなぐ総合学習の取り組み	高1国際「横浜でグローバル」の授業実践報告
	政治経済の授業における平和教育の取り組み	
	現地に立って学ぶ	高3選択科目『地域研究京田辺』の取り組み
	「社会科通信」を活用した世界史の授業実践	生徒に近づくためにしてきたこと
障がい児教育	興味関心をおこす世界史Aの資料の追求	1年間の授業実践から考えたこと
	原発事故は「防げた」	高校生として学ぶ東電福島原発事故
	安保法制をディベートした現代社会の授業	
	高校生は秩父事件をどうとらえたか？	困民党の蜂起は「暴動」だったのか？
	アメリカ合衆国近代史の授業	
	大学生は「考える問い」づくりをどう受け止めたか	地歴科教育法の実践から
父母市民の歴史学習	大学の授業から『主権者教育』を考える	戦争スゴイ授業『対話』から『学び』へ
	療育活動を取り入れた体育の学習	人と合わせる動きを大切に
	日本国憲法と障害者の権利保障の歴史を学ぶ	特別支援学校高等部「社会科」の実践
	特別支援学校での「社会認識を育てる授業実践」を振りかえる②	「育てたい力」と「その方法」を整理する
	地域で、普通に生きてほしいな	学校を卒業した後の障がい者
	「障害児児童疎開資料集（全4巻）」刊行の取り組み	光明学校の児童疎開関係の資料を中心に
社会科の学力と教育課程	安房における明治以降の医療と図書館・文化活動	
	忘れられた明治・大正期の政治家澤来太郎	自由と民権に捧げた反骨の生涯
	市民と学ぶ植民地支配と侵略戦争	戦災孤児、北朝鮮からのひきあげを題材に
	労働組合の新人組合員に対する学習会資料	パンフ「労働法制の歴史」
	地域の史料を読んできた30年	京浜歴史科学研究会の歩みと課題
	池田鎌二さんの生涯	反戦・平和の志に学ぶ
授業方法	若者と歩もうとしているか	
	国民は日本国憲法をどう受け入れたのか	
	思想良心の自由と教育の自由を守るとりくみ	こころの自由裁判と高校日本史採択問題
	商店ではたらく人たち	スーパーとコンビニを比べながら
	鈴木正氣実践「久慈の漁業」のアクティブ・ラーニングからの分析	討論の授業成立の背景
	日清戦争の戦場と銃後をつなぐ授業	「軍夫」を教材として
授業方法	アクティブ・ラーニングにおける能力論と1970年代学力論の比較検討	
	「グローバル教育」と社会科	その果たすべき役割を考える
	自由民権運動・キリスト教、そして海外移民へ	日本の近代民主主義の源流を和歌山県から見る
	浦安の歴史をどう教えたか	
	沖繩に心をよせる修学旅行をつくりたい	
	すべての学生に成長を	中国文学史における予習・復習の習慣化とその効果
社会科の学力と教育課程	生徒による「質問」づくりと社会科教育	
	授業で、ホームルームで、目指すのは「一人前」	3月に卒業したメンバーの声でつづる高校での学び
	古代人の心情に寄り添った日本史の授業	共感を認識の深化につなげる方法を考える
	四日市・福島に学んで	「もうけ」より人の命・ふるさとの自然
	草分京子さんから学ぶ教師の役割	